



【特集】水環境の保全に向けて

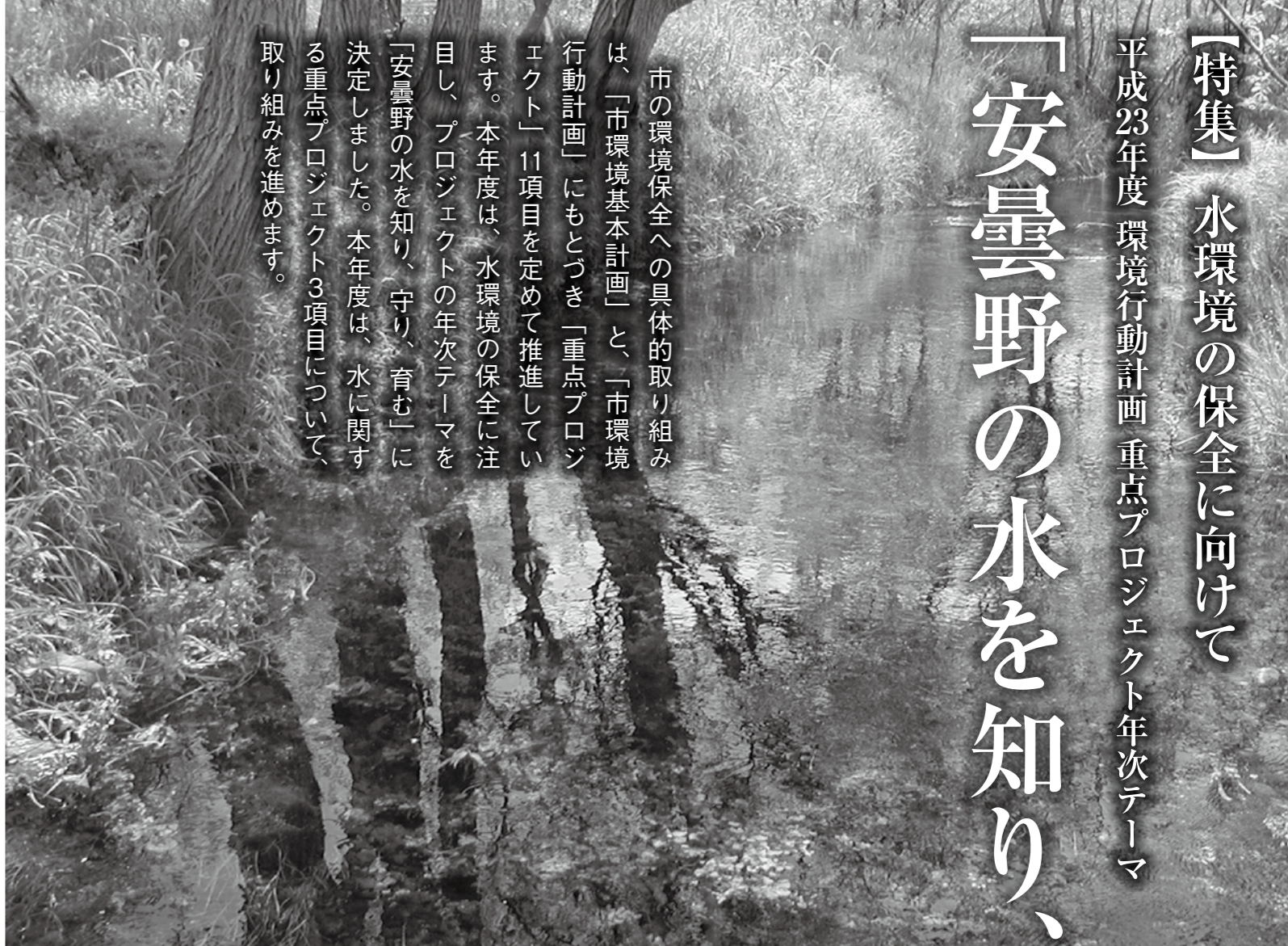
平成23年度環境行動計画 重点プロジェクト年次テーマ

「安曇野の水を知り、

守り、育む」

市の環境保全への具体的取り組み

は、「市環境基本計画」と、「市環境行動計画」にもとづき「重点プロジェクト」11項目を定めて推進していきます。本年度は、水環境の保全に注目し、プロジェクトの年次テーマを「安曇野の水を知り、守り、育む」に決定しました。本年度は、水に関する重点プロジェクト3項目について、取り組みを進めます。



水辺の環境を「知る」

「安曇野環境市民ネットワーク」は、市内外で環境保全の活動を行う約30の団体・個人の皆さんで組織され、「市環境基本計画」の取り組みを実現していく上で中心的な役割を担っています。このうち水にかかわる活動を行う団体では、水辺の環境整備や、自然観察会を通して、安曇野の水環境を守る活動や啓発活動を行っています。（写真左）皆さんも一緒に水辺に親しみ、環境を知ることから始めてみましょう。各団体の活動の詳細については、生活環境課へお問い合わせください。

地下水を「守る」

市の上水道の93%は、地下水で賄われています。また、平成19年地下水利用状況調査によれば、上水道のほか、産業や農業用として一日に約15万2千立方メートルの地下水がくみ上げられています。これは25リットル約390杯に相当します。（幅13メートル、水深1.2メートル換算）
これだけの水量を賄う市内の地下水ですが、近年、ワサビ田の水位が下がる、水が枯れるなどの現象が起きています。将来、地下水の枯渇などが起きる前に、きちんとした方策を講じることが必要です。

豊かで清らかな水を後世に残すために

なぜ今、水環境の保全が必要なのでしょう。私たちが暮らす安曇野は、田を潤す堰や大小さまざまな河川が景観をつくり、地下水

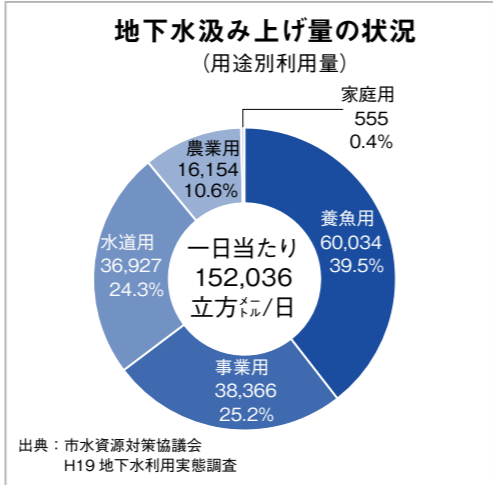
「環境行動計画」
11重点プロジェクト
水に関する重点プロジェクト

- 豊かな地下水を保全する（地下水保全の指針づくり）
- 歩いて楽しいまちづくり（水景観の活用）
- 環境について教え学び、取り組む仕組みづくり（学校・公民館などでの学習）

「環境基本計画」

が水道水の水源となるなど、風土、暮らし、産業と、さまざまな面で水と密接な関係にあります。しかし、水はいつまでも無尽蔵にあるわけではありません。水は私たち生命の源です。大切な安曇野の水を後世へ守り伝えて行くために、私たちは河川周辺の環境を守り水質を保ち、地下水の適正な使用などに取り組むことが求められています。

「市環境基本計画」に基づいて市は現在、市民、事業者の皆さんと協働して環境の保全に取り組んでいます。本年度は、水に関する重点プロジェクトとして3項目を定め、市民の皆さんに水環境の保全について理解を深めていただくとともに、安曇野の水環境の中心をなす地下水の保全について取り組みます。



市では、(仮称)「地下水の保全及び涵養並びに有効利用に関する条例」の制定に向けた調査研究、指針の策定等を行うため、昨年7月に有識者や関係団体代表者等による「地下水保全対策研究委員会」を設置しました。
委員会ではこれまでに、地下水の保全・涵養事業に関する先進地の取り組み状況や、これらの課題の整理・分析等を行いました。本年度は、市民アンケートや地下水利用実態調査、地下水シミュレーション等を実施し、地下水保全対策指針を作成する予定です。

※涵養 地表の水が地中に染み込み地下水に変わること。



三角島ふるさとの森プロジェクト
三角島は、万水川と蓼川と欠川に囲まれた緑あふれる場所で、以前は子供たちが魚とりや水泳をして遊んだ場所です。平成21年より本プロジェクトがスタートし、自然観察会や外来種の駆除などの環境整備を行っています。（写真上 アレチウリ駆除活動）

拾ヶ堰応援隊
先人の遺業である延長15メートルの拾ヶ堰を見守り、川をきれいにする活動をしています。内容は草取り、ウォーキング、生物の調査に加え、川に親しむ楽しいイベントも実施しています。（写真中 拾ヶ堰の草刈り）

NPO 法人川の自然と文化研究所
身近な川を調べ、地域文化との関係や生物のすみかとしての成り立ちを考え、今後の川の姿を提言しています。毎年「川の自然と文化講演会」を開催しているほか、ニュースレターの発行、自然観察会の開催・支援を行っています。（写真下 自然観察会の様子）